

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成21年8月27日(2009.8.27)

【公開番号】特開2008-31055(P2008-31055A)

【公開日】平成20年2月14日(2008.2.14)

【年通号数】公開・登録公報2008-006

【出願番号】特願2006-203996(P2006-203996)

【国際特許分類】

A 6 1 K	31/19	(2006.01)
A 6 1 K	47/40	(2006.01)
A 6 1 K	47/10	(2006.01)
A 6 1 K	47/26	(2006.01)
A 6 1 P	3/04	(2006.01)
A 6 1 K	47/36	(2006.01)
A 2 3 L	1/307	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	31/19
A 6 1 K	47/40
A 6 1 K	47/10
A 6 1 K	47/26
A 6 1 P	3/04
A 6 1 K	47/36
A 2 3 L	1/307

【手続補正書】

【提出日】平成21年7月14日(2009.7.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

酢酸を、無水物換で、0.01質量%以上10質量%未満、望ましくは0.1質量%以上5質量%未満含有し、かつ、無水物換算で、酢酸1質量部に対して環状オリゴ糖を10質量部以上含有してなる摂取用組成物。

【請求項2】

さらに、非環状非還元性オリゴ糖を含有してなる請求項1記載の摂取組成物。

【請求項3】

環状オリゴ糖が、-サイクロデキストリン、-サイクロデキストリン、-サイクロデキストリン、サイクロ{6)-D-グルコピラノシル-(1-3)-D-グルコピラノシル-(1-6)-D-グルコピラノシル-(1-3)-D-グルコピラノシル-(1-)の構造を有する環状四糖、サイクロ{6)-D-グルコピラノシル-(1-4)-D-グルコピラノシル-(1-6)-D-グルコピラノシル-(1-4)-D-グルコピラノシル-(1-)の構造を有する環状四糖、サイクロ{6)-[D-グルコピラノシル-(1-4)]n-D-グルコピラノシル-(1-) (nは4又は5を意味する)の構造を有する環状五糖や環状六糖、及び、これらの環状オリゴ糖の糖質誘導体から選ばれるいずれか1種又は2種以上であり、非環状非還元性オリゴ糖が、-トレハロース、-トレハロースの糖質誘導体、

- トレハロース、ラクトネオトレハロース、ラフィノース、エルロース、マルチトール、マルトトリイトール、ラクチトールから選ばれる何れか1種又は2種以上であることを特徴とする請求項1又は2記載の摂取用組成物。

【請求項4】

酢酸として食酢を使用することを特徴とする請求項1乃至3の何れかに記載の摂取用組成物。

【請求項5】

体重の増加抑制及び／又は体重の低減作用を有することを標榜してなる請求項1乃至4の何れかに記載の摂取用組成物。

【請求項6】

内臓脂肪の増加抑制及び／又は内臓脂肪の低減作用を標榜してなる請求項1乃至4の何れかに記載の摂取用組成物。

【請求項7】

血中脂質及び／又は血中遊離脂肪酸の低減作用を標榜してなる請求項1乃至4の何れかに記載の摂取用組成物。

【請求項8】

請求項1乃至7の何れかに記載の摂取用組成物を経口的に摂取することを特徴とする、酢酸による体重の増加抑制及び／又は体重の低減作用の増強方法。

【請求項9】

さらに、超音波痩身促進具を併用することを特徴とする請求項8記載の酢酸による体重の増加抑制及び／又は体重の低減作用の増強方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

本発明の摂取用組成物は、粉末、球状、板状、立方、短棒、顆粒、錠剤などの形状であってもよく、そのまで、又は、必要に応じて、增量剤、賦形剤、結合剤などと混合して、粉末剤、顆粒剤、錠剤、カプセル剤などの各種剤型で使用することもできる。また、例えば、特開2003-231629号公報などに開示されている炭酸水ナトリウム、炭酸ナトリウム、炭酸カリウムをはじめとするアルカリ金属の重炭酸塩や炭酸塩と、これらの塩から炭酸を発生させることのできるクエン酸、リンゴ酸、酒石酸、アスコルビン酸やその誘導体、リン酸2水素ナトリウムをはじめとする酸の塩類などからなる発泡性崩壊剤、さらには、香料、着色料、甘味料をはじめとする調味料などを加えて、発泡性の錠剤とし、飲みやすさや口中での崩壊性を向上したり、この錠剤を、摂取する際に、水、清涼飲料、乳飲料などで溶解し、飲用に供することのできる用時溶解型の錠剤とすることも有利に実施できる。